

カルメル

靈性センターニュース



2023年6月

398号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	28
名古屋	31
キリスト教放送局F E B Cのご案内	32
諸所の企画案内	33
通信深読お申込みのご案内	38
郵送お申込みのご案内	39



心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第五十五章 肉の墮落と神の恵みの結果

4 選ばれた人々の賜物

ああ主よ、善をおこない、それに進み、それを完成させるために、私にとってどれほど、あなたの恵みが必要でしょう。それがなければ、私には何事もできません(ヨハネ 15・5 参照)。だが、神の恵みによって力づけられると、私には何でもできます(フィリピ 4・13 参照)。実に、神の恵みこそ天からのものです。恵みがなければ、私たちの功德はなく、自然のどんな賜物も無価値です。主よ、恵みがなければ、芸術も、富も、善も、強さも、才能も、雄弁も空しいものです。自然本来の賜物は、人の善悪にかかわらず与えられますが、神の恵みは選ばれた人々に与えられる特別な賜物です。神の特別な恵みは愛のしるしであり、これをもてば、人間は永遠の生命に迎え入れられます。神の恵みは、まことにすぐれたもので、それなしには、預言者の賜物も、奇跡も、崇高な観想も、無価値に等しいのです。そればかりでなく、信徳も、望徳も、そのほかのあらゆる徳も、愛徳と恵みをともなわなければ、あなたに喜ばれません。

5 敵よりも強いもの

心の貧しい者に徳を富ませ、財産のある者を心の貧しい者とする神の尊い恵みよ、私の心を訪れてください。私の霊魂が疲れ、味気なさに倒れてしまわないように、あなたの慰めをもって、私を満たしてください。主よ、み前に受け入れられる者にしてください。私の肉が、ほかのどんな願いを拒まれたとしても、「私には神の恵みだけで十分です」(ニコリント 12・9)。誘惑され、患難にあっても、神の恵みがあれば、私はどんなわざわいも恐れません。神の恵みは私の力であり、私に忠告し、力づけるものです。どんな敵よりも強く、この世のどんな知恵者よりも賢いものです。

6 信心を養う

神の恵みは真理の教師、規律のもと、心の光、不安の解消、悲しみを追い払い、恐れを退け、信心を養い、罪のために涙を流させるものです。

それがなければ、私は投げ捨てられる無用の枯木、枯草にすぎないのではないのでしょうか？「父である神よ、あなたの恵みをつねに私の先に立たせ、私にともなわせ、善行に従事させてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン」(聖霊降臨後第十六主日の旧典礼文。)

庭の紫陽花は一雨ごとにその色合いを深め、新鮮な姿を楽しませてくれます。今日は昨日と違う色合いをまとい、明日は今日とは趣をこと異にして。神のいつくしみの愛によって変えられてゆく私たちの姿と重なるようです。それには日々主の言葉を守る必要がありますが、6月の教会典礼は私たちが神と親しく生きるよう応援してくれることでしょう。

「父が私を愛されたように、私もあなたがたを愛してきた。私の愛にとどまりなさい。」

(ヨハネ5・9)

4日 三位一体の主日

聖なる父よ、あなたは、みことばと聖霊を世に遣わし、
神のいのちの神秘を示してくださいました。

唯一の神を礼拝するわたしたちが、三位の栄光をたたえることができますように。

～三位一体の主日の集会祈願

私の一生に太陽の光がさんさんと注いでいたのは、
「心の深みに住まわれる神」と親しくしていたからでした。

～三位一体のエリザベット～



11日 キリストの聖体



聖なる 神なるホスチア
生きているのは もはや私ではない
あなたのいのちを生きています
どんな黄金の器より あなたが好まれる聖体の器
イエスよ、それは私！

～テレーズの詩～



16日 イエスのみ心

24日 洗礼者聖ヨハネの誕生

29日 聖ペトロ 聖パウロ使徒

三位一体の祭日、ご聖体の祭日、み心の祭日の流れは「神のいつくしみの大海」へと私たちを導き、そこにとどまるように招いています。「神が望まれるのはご自身を無償で与えること、そのいつくしみの愛を信じること」です。こうして私たちは神の愛によって変えられていきます。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（65）

くのり
九里 彰

リジューの聖テレジアの「小さい道」に対する一つの誤解は、アピラの聖テレジア（大テレジア）の言う「偽りの謙遜」に当たるのではないだろうか。たしかに小テレジアには、大きなわざはない。その意味で、人が目を見張るような大きなわざをなすことができない普通の人々にも、聖人となる道を開いてくれたと言うことはできる。

だが、それは大きなわざに憧れ、絶えず自分を卑下し、劣等感を引きづりながら、謙遜をよそおうことではない。それは、優劣の価値、評価を絶えず問題とする人間の世界にとどまることである。大テレジアの言う「真の謙遜」は、人間同士の比較ではなく、神の前での自分の「惨めさと無」を徹底的に認めることから生まれて来る。それは、優劣の複合感情（コンプレックス）から解放され、無限の神の愛の世界、「信仰の世界」に入ることだと言ってよい。神の前では、人間の優劣は、言わば地球の表面上の凸凹のようなものだからである。

世界最高峰のエベレストは 8849m、最深のチャレンジャー海淵は 10,920m。地球の直径は 12,756 kmだから、約 2 万メートルの凸凹は、直径に対し 0.00157、0.1%にも満たない。地球の大きさの前に、人間が驚愕する海や山の凸凹も、無に等しいということである。さらにその大きな地球自体も、無限の宇宙の前には塵のようなものでしかないのである。「信仰の世界」に入るということは、人間の尺度を越えた無限の世界に入るということである。

とはいえ、そのとき、地球の表面上の凸凹がなくなるわけではない。凸凹は凸凹のままである。大きなわざと小さなわざの差は、そのまま残る。だが、小さなわざは、大きなわざの前に何も卑下することはない。小さなわざは小さなわざとして、大きなわざは大きなわざとして、それぞれ神の前に等しく価値あるものとされるのである。

『自叙伝』のプロローグにある自然の多様性のすばらしさは、そのことを言っていると思われる。「バラやユリ」は「バラやユリ」として、スマレやひな菊のような「小さな花」は「小さな花」として、そのまま神の目には価値あるものであり、ともに創造主である神を賛美しているのである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (180)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架のヨハネの情景 (2)

—今、何人かの敵が私たちをひどい目にあわせるために現われ、私たちをひどく殴りつけ、ほかにもひどいことをしたとしたら、あなたはどうしますか？

この証人は、次のように答えました。

—私たちの主なる神のお恵みによって、忍耐できますように。

するとくだんの聖人は、大いに熱を込めてこう答えました。

—今からそんなに生ぬるくては、一体どうなることやら。私たちの主イエス・キリストのために殉教しようとするきわめて大きな望みを持たないで…。私たちは、私たちの贖い主キリストのために、もっと私たちを殴り、もっと苦しめてくれるよう、彼らを説得しなければならないのだ」と。

これが、マルティン修士が物語ったとおりの光景です。彼は続けて、聖人の殉教に対する愛や、殉教者の役を果たすとすれば、どのように殉教したいかについて、他の情報を付け加えています。

十字架と栄光 (1)

聖フランシスコの場面と聖ヨハネの場面にあった小さき花（こぼれ話）を耳にしたわけですが、その実りはどんなものでしょうか。

聖フランシスコの場合、聖人自身が、その本の中で、章の終わりでこう言っています。

「あらゆる善いものや恵みやキリストがその友に与える聖霊の賜物の上に、自分自身に打ち勝つことや、キリストの愛のために、すすんで苦しみや侮辱や不名誉や煩わしさを忍ぶことがある。というのも、神から来る他のあらゆる賜物では、私たちは何も誇ることができないからである。それらは私たちのものではなく、神のものだからである。(続く)

(P. 九里訳)

三位一体の祭日 (A)

(ヨハネ 3 : 16 - 18)

聖なる三位一体の祭日にあたり、教会の知的偉人のひとりである聖アウグスチヌスに関する古い物語から始めたいと思います。ある日、彼は三位一体の神秘の意味を理解しようとして海辺を歩いていました。一人で歩いていると、波打ちぎわで小さな男の子が海の水を貝殻で砂の小さな穴に注いでいるのを見ました。アウグスチヌスは、「坊や、何をしているの？」と尋ねました。「この穴に海を入れて。海を空にしようとしているのだ」と男の子は無邪気な笑みを浮かべて答えました。「それは不可能だよ、坊や」とアウグスチヌスは言いました。男の子は立ち上がり、アウグスチヌスの目を真直ぐに見て答えました。「あなたがしようとしていること、あなたの小さな頭で神の無限を理解しようとするのはもっと不可能なことです。」そう言うと、その子は消えました。アウグスチヌスに教訓を与えるために神が送った天使だったのです。

後に、アウグスチヌスは書いています。「もし愛を見れば、あなたは三位一体を見ているのです。」アウグスチヌスによれば、御父は愛する方、御子は愛される方、聖霊は愛する行為そのものの具現です。か弱い知力よりも信じる心によるほうが、より容易く聖なる三位一体について何か理解することができるということを意味しています。

本日の福音の焦点は聖なる三位一体の神秘についてです。神を三者の姿、すなわち御父である神、御子であるイエス、そして聖霊の三者で表し、神の働きに対して私たちの注意を引きつけています。御父である神はこの世に対する愛からこの世を救うために御子を送ってくださいました。御子の死と復活により、私たちは聖霊の恵みを与えられています。三者として、神は常に愛の神として働かれます；神はこの世を咎めるのではなく、救うために働かれます。

第四の福音でのニコデモとの討論から、神と神のひとり子との信仰についての明確な教えを得ます。これは私たちの信仰の重要な部分です。信仰とは、明らかにされている神のみことばを受け入れることです。私たちへの神の愛は、神のひとり子と私たちのために勝ちとってくださった救いに対する信念をはっきりと言い表す信仰によって応えるように私たちを招いておられます。この信仰を公言することが、私たちの生活の中での聖霊の働きのしるしなのです。

(Sr. Paulina)

キリストの聖体

(ヨハネ 6 : 51 - 58)

今日は、キリストの聖体の祭日。福音はイエスがティベリアス湖の向こう岸に渡られ、そして山に登り、ご自分のところに来た大勢の群衆にパンと魚を増やす奇跡を行われ、その翌日、ご自分を捜し求めて湖畔のカファルナウムに来た人々に語られた場面です。

イエスは人々に語られます。「わたしは、天から降って来た生きたパンである。」と。そして「このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」と語られました。

また引き続いて「わたしが与えるパンとは、・・・わたしの肉のことである」と言われ、人々は「どうしてこの人は自分の肉を食べさせるのか」と議論をし始めるわけですが、イエスは彼らに対して、事細かく具体的に説明をなさることはなさいませんでした。

そればかりか説明でなく「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。」と理解するのが難しいことを加えて言われました。ありのままのことをそのままストレートに人々に話されるイエス。そのことを受け止めることが難しい人々。

語られた人々にとっては、神の子イエスからの神への信仰におけるチャレンジの様なものだったのではないのでしょうか。すぐにはなかなか理解できないとしても、イエスが仰ったこととしてきちんと受け止めて歩んでゆくなら、大きく変えられていったのではないのでしょうか。

その場に居合わせた弟子たちや使徒たちは、イエスが死に復活された後、このことを思い出して、イエスが残されたパンとブドウ酒による「死と復活」の記念を行ってゆき、その記念は今も綿々と教会で行われており、世の終わりまで続いてゆくのでしょうか。

天から降った生きたパンであるイエス。そのお方の死と復活の記念をミサの中で行い、そのお方を受けていることを、私たちはどれだけ意識し、大切にしているのでしょうか。聖別された聖体のうちにおられ、今日も私たちにご自分を与えて下さいます。私たちもその生きたパンであるお方と結ばれ、神の子として相応しく歩むことができますように。

神の恵みと祝福が、皆様おひとりおひとりの上に豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第11主日 (A)

(マタイ9:36-10:8)

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」

本日の福音では、イエスが人々の現状に深く共感したことが描かれています。イエスは群衆の様子を見てあわれに思い心動かされたのです。彼らはまるで羊飼いのいない羊のように弱り果て、打ちひしがれていました。イエスは、力尽き、疲れ、病む人々をありのままに受け入れ、彼らを慰めたいと願いました。

イエスは天の国を宣べ伝える使命を弟子たちと共有します。その宣教活動の規模は果てしなく大きいため、イエスは弟子たちにまず祈るようにと仰いました。「収穫は多いが働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」。イエスは祈りの大切さを強調します。祈りは、使命を果たす上で弟子たちが最優先すべきものです。祈りは、迫害や暴力を受けたり失敗したりした時も、使命を忠実に果たす力を弟子たちに与えてくれます。この使命はそもそも神ご自身の使命ですので決して朽ち果てず、弟子である私たちと次世代の弟子たちを通じて継承されていくのです。

イエスは、12人の弟子たちを呼びよせ、汚れた霊を追い払ってあらゆる病気を治す権能を授けました。天国が近づいたことを明らかにするために、病人をいやし、死者を生き返らせ、重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払い、無償で仕えるという単純で具体的な方法が用いられます。場所や時間を問わずこの使命が果たされた時に神の国は建設されるのです。イエスがご自分の使命の継続を願って弟子たちを派遣されたように、教会で受洗された一人ひとりも使命に貢献するべくイエスから派遣されています。私たちは一人残らず、収穫をするために収穫地に赴く働き手として呼ばれているのです。さあ私たちもイエスのいやしといつくしみを貧しい人や苦しんでいる人に運んでいきましょう。私たちが日々欠かさずキリストの使命を強く意識して生きることができるようになります。

(Sr. Paulina)

年間 第12主日 (A)

(マタイ10:26-33、エレミヤ20:10-13)

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。」(マタイ10:26-27)

イエス様は、私たちにいただいた神様の教えを告げ知らせるように促されます。その際イエス様は私たちに何度も、「恐れるな」と励まされます(10:26, 28, 31)。この「恐れるな」は聖書の中で、救いの歴史の中で特別な役割を与えられた聖人たちに何度も語られた言葉です。旧約と新約を結ぶ方、旧約の実りとしてのマリア様にも「恐れるな」は告げられました(ルカ1:30)。

マリア様のことを思いめぐらすならば、いただいた神様の教えを告げ知らせることは、必ずしも街頭演説のように声高に語ることだけが告げ知らせることではないように思います。自分に受けた神の言葉を引き受けて、育んでいき、キリストを世に産み出し与えていく、神を意識し、神と共に生きることこそが何よりも言い広めることになるのかもしれない。マリア様のように、キリストが十字架にかけられ、犯罪者の母とみなされながらも最後までキリストと共に歩むことが、宣教になるでしょう。

今日の福音で特に印象深いことは、他の箇所でもそうですが、イエス様は神様の教えを述べる際、しばしば自然から学ぶように私たちに促しておられることです。

「二羽の雀が一アサリオンで売られているのではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。」(マタイ10:29-31)

私たちは、エレミヤのように、神様の応答がなくて苦しむことがあります。さらには神様はエレミヤの願いの敵への復讐を実現せず、復讐の代わりに敵を赦すことをされました。

私たちは、神と共に生きる際、神不在の感覚に苦しむことがあります。イエス様は、そのような私たちに、日常における神のわざの反映を聞くように、神のしるしに目を向けるように促しておられます。そして、まさにキリストこそが、そのようにこの現実を見、この現実、日常に、神の国が来られていることを見て取っていたのでした。

(P. 志村)

いのちの言葉 6月

兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。

思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。

そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。¹

(コリントの信徒への手紙二 13・11)

コリントの町のキリスト教共同体の発展を、使徒パウロは愛を持って見守り、困難な時期には訪れ支援してきました。

しかしある時、この書簡をもって、パウロは他の伝道者たちからの非難に対し、自分を守る必要に迫られました。パウロが無報酬で宣教し、雄弁家ではなく、権威を裏付ける証明もないこと。イエスにならって、自らの弱さを誇っていると宣言していること。こうしたことが非難の的となっていました。

そうしたなかでもパウロはこの書簡を締めくくるにあたって、コリントの人たちに信頼と希望に満ちて呼びかけます。

兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。

思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。

そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。

まず目に留まるのは、パウロの呼びかけが「神の存在を体験できる場」としての共同体全体に向けられていることです。人間の弱さは、互いを理解し、忠実かつ誠実に交わり、経験や考えの違いを尊重して調和を保つことを難しくしてしまいます。けれども平和の神が存在されるなら、そうした弱さはすべて癒していただけるはずです。

パウロは書簡の中で、福音の求めに答えて生きるための具体的な提案をしています。兄弟姉妹として、一人ひとり、また皆の上にある神のご計画の実現を目指すこと。私たちが神から受け取った慰めの愛を、同じように差し出すこと。互いを気遣い合い、心の深いところで願うことを分かち合い、互いに受け入れ合い、慈しみと赦しを与え、また受け取ること。信頼を育み、耳を傾けることなどです。

これらは、私たちの自由に委ねられた選択であり、時には、世の風潮に対して「反対を受けるしるし」(ルカ2・34)となる勇気が必要です。

だからこそパウロは、互いに励まし合うことも勧めているのです。パウロにとって大切なのは、愛と真理に基づいた一致と平和の計り知れない貴さを守ること、喜びをもってそれを証しすることです。すべては、ご自分の民に寄り添う神の、無条件の愛という岩の上に成り立つものです。

兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。

思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。

そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。

この「いのちの言葉」を生きるため、私たちもパウロのように、ご自分の平和²をもたらすために来られたイエスの模範と気持ちに目を向けましょう。

キアラ・ルービックはこう書きました。

「(イエスがもたらされた平和は)単に、戦争や争い、分裂や傷跡がない状態を指すものではありません。…あふれる命と喜び、自由、人間の尊厳がすべての面で尊重されること、あらゆる国の人々が皆、愛の内にきょうだいとして生きることです。…『ご自分の』平和を与えるため、イエスは何をされたでしょうか。身をもって、そのために支払ってくださいました。…敵対する者たちの間に入れられ、憎悪と分裂を身に浴びて、民を隔てていた壁を取り壊してくださったのです。」³

平和を築くためには、私たちにも、強い愛が求められます。それは、愛に応えない人々をも愛すること、赦すこと、敵という見方を乗り越えること、相手の国を自分の国のように愛することを知っている愛です。…また平和を築くには、きょうだいになりえる相手として、すべての人を見る、新しい心と目が必要です。…『悪は人の心から生まれます』とイジーノ・ジョルダニは記しています。『戦争の危険を取り除くには、戦争を生み出す元となる攻撃や搾取や利己主義の精神を、取り除かねばなりません。人間の良心を作り直す必要があります。』⁴ ⁵

南アフリカの農業地帯ハーツウォーターにあるボニータ・パーク区域。ここでは、この国における他の地域と同様、アパルトヘイトの影響が特に教育分野で残っています。黒人やカラード(混血)の若者の教育水準は、他の民族よりもかなり低く、結果的に社会的疎外に陥るリスクがあります。

「Bridge(橋)」プロジェクトは、地域内の異なる民族間の距離や文化の違いを埋める活動として生まれました。放課後プログラムや、子どもや若者のための、異文化間の出会いの場として小さなスペースを作り、地域の人たちも積極的に協力する姿勢を見せてくれました。カルロはベンチや机を作るための木材を運ぶのに、古いトラックを提供してくれました。近くの小学校の校長先生は、棚、ノートや本を、オランダ改革派教会は50脚の椅子を寄付してくれました。各々ができることをして、異なる文化や民族の間をつなぐ架け橋を日々築いています。⁶

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編集チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. ヨハネ 14・27 参照
3. エフェソ 2・14-18 参照
4. 「L'inutilità della Guerra (戦争の無益さ)」(未邦訳)ローマ 2003年 第2版 p.111
5. キアラ・ルービック 2004年1月の「いのちの言葉」
6. <https://www.unitedworldproject.org/en/workshop/south-africa-a-bridge-between-cultures/> 「Spazio famiglia」(フォコラーレ・新しい家庭運動の月刊誌)2019年3月号, pp.10-13

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年4月9日

破壊と希望から見たシリア訪問記

2023年2月25日 (土)

旅の目的地アレッポへ：OCD総長 ミゲル・マルケス・コッレ神父



2023年2月17日～24日まで、イラクのキリスト者、カルメルファミリー 及びフランス、エジプト、レバノン、イタリアからのカルメル会士と信徒たちは、バグダッドのラテン大司教 モンセニョール スレイマン、OCDと共にアブラハムの地イラクにおけるカルメル会の存在400周年を祝って活気に満ちた交わりの祝賀会を催しました。その後、私は誠実な仲間のフランス人OCD総長顧問のクリストフ マリー神父と一緒にこの中東地域を通る一連の旅をしました。

私たちはバグダッドから、聖書でその美しさと輝きが歌われるレバノン杉の地、レバノンのベイルートに空路で着きました。ここでは、長年カルメル会が活潑で実質的な貢献をしています。そこには、いくつかの男子跣足カルメル修道会の共同体、女子跣足カルメル修道会の二つの修道院、跣足カルメル在世会の共同体、学校養成所があり、国内カリタスへの熱心な関与もなされています。この国はまた、厳しい結果をもたらした悲惨な経済危機、シリアや周辺国の内戦による移民流入のため、過酷な試練にあってきました。ここで私たちは、シリアへの通過の旅で偶然に、管区総会準備の一環として養成の任務と課題について話し合うための本会議に来ていた、カルメル会準管区の兄弟たちと一緒にになり、同行することになりました。

私たちは、2月24日の夕方ベイルートのハズミエに到着し、修道士たちや信徒と共に美しい聖歌を歌って十字架の道行をしました。翌日は、そこから北方のトリポリにあるミジドラヤの共同体を訪れて昼食後いよいよシリアに向かう旅が始まり、ライムンド管区長は私たちをシリアへと連れて行ってくれました。彼はシリアに渡るこの冒険において大変経験豊かな人です。国境につくまで約1時間かかり、レバノンとシリアの3,4箇所検問所を通過するのに約1時間かかりました。そして私たちはライムンド管区長の努力と良い働きのお陰で、シリアの領土に入ることができました。軍と警察の入国管理は一貫していました。今年午後2時45分です。そこからさらに約1時間の道のりを行き、運転手のレヴァンを伴って私たちを迎えに来てくれたアレッポの女子跣足カルメル修道会修道院長シスターアンと、国境から40Kmの待ち合わせ場所ホルムスで会いました。

レヴァンはここ何日間の彼の体験を語りました。地震の発生以来、彼は妻と2人の子供と一緒に今乗っている車で寝ていて、今まで3週間にわたりこの車は夜の避難所でした。

多くの人々はまだ自分たちの家に戻っていません。マリスト会では約800人、サレジオ会では約1000人に宿泊場所を提供し、また多くの人々は車に泊まっています。彼らは日中家に入りますが、夜は小規模の地震が繰り返されているため恐れています。シリアに入っていくと、ことばで言い表せない光景を目にしました。そこには戦争で荒廃した何マイルもの土地があり、まるで魂の無い抜け殻のようでした。そんな中、ある市や町では田舎の人々が座って話をし、子どもたちが遊ぶのを見かけました。いくつかの羊の小さな群れが頻繁に通り、太陽は午後6時半ごろ沈みました。

私たちは、夜8時半に女子跣足カルメル修道会の修道院に到着しました。そこで2人の難民の女性と1人の少女が出迎えてくれて、私たちが持参した果物や箱を仕舞うのを手伝い、私たちを歓迎してくれました。彼らは、私たちの訪問はアレッポを照らす、とアラブ特有の挨拶を述べました。それから、シスターたちは私たちと会えて喜び、活気にみちた対話の中で、地震発生時の状況を話しました。最初の地震の2月6日早朝4時、皆がパジャマを着たまま裸足で通りに駆け出しました。雨が降っていてとても寒く、外の人たちは車の中に逃げ込みました。彼らは家に帰るのをとても恐れていました。シスターたちは、すぐ修道院に助けを求めてくる人々や家族を受け入れ始めました。現在、この修道院の敷地には約50人が避難しています。

2回目の地震の時シスターたちは、歌隊所で聖母のご像が揺れ、花瓶も花も動き始め、その場に立ちすくんでしまったと話しました。地震の前にシスターヒルダは、修道院の飼い犬が興奮したように彼女の部屋に入り、ベッドに上がり何か言いたそうに足で彼女を叩いたので、やっとのことで犬をベッドから降ろして眠りました。犬はベッドのそばで唸りながら立っていましたが、その数分後に地震が起こったのです。犬とその第六感はとても敏感でした。

今、夜の8時でシスター達は、現地で採れた食材と名物のお菓子で作った美味しい夕食を用意してくれました。居間には暖かい暖炉があり、きれいに整えられた2つの寝室がありました。ここでの心のこもった歓迎のすべてと、先に私たちが垣間見た外の荒廃した様相は、全く対照的でした。

そのあと、聖ビンセンシオ宣教会のボランティアたちが食べ物を持ってきたのに出会いました。もう夕食は済ませたのですが、彼らはとても美味しいと保証付きの持ってきたポテトオムレツを食べようすすめたので、いつものように提供されたものをありがたく受け取りました。私たちはここにいる数人の子どもたちのいくつかの家族に挨拶しましたが、そこにはもっと多くの子どもの家族がいることを知りました。ある夫婦からは、スペインやイタリアに連れて行って欲しいと言われました。彼らは、ここで何も持っていませんが、満面の笑みで私たちを迎えて、私たちの訪問に感謝し、私たちにお祈りを願いました。

この日は、シリアのこの地にたどり着くことができ、ここの避難民の人たちに少しばかりの親密さと安らぎをもたらせたことを感謝して終わりにします。

(訳・注:小宮山延子)



糸巻き棒からペンへ(87)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

うれしいときには、復活された主を眺め、その栄光を楽しみなさい。けれども考えすぎて疲れないように、また多くの言葉で頭をおかしくしないようにしなさい。愛に満ちた気遣いとやさしい愛情をもってあなたの花婿と共にいるように、無理せずに穏やかに意志を導きなさい。記憶や知性が主をもっと愛するように意志を助けてくれないならば、それらを気にしないように。説明に求められる言葉や考えを探さずに、平和と安らぎの内に花婿へと愛に満ちた気遣いをもって集中しなさい。自分はキリストに見られるがままとなり、愛情と感謝をもって彼を眺めなさい。

畑に水をやる第三の方法は、川や小川がある場合です。用水路を通して水が入り、農夫はほんのわずかしか働かずに大地が湿るままとなります。たしかに水の流れは主が与えてくださるものです。この第三の祈りの段階は、諸能力の眠りで、そこでは何が起きているのかを理解することも、言葉で説明することもできずに、多くの喜びをもって神を享受します。このような平和や喜びや満足は、自分の心から生まれるとは、私には思えません。また自分の考えからでも、自分が見たり聞いたりしたことからもなく、他のもっと内的な部分から生まれるのだと思われまふ。そこで感じる満足は、この世の満足のようにではありません。靈魂の中心—そこに神はおられ、人と交わられる—から生じるものであると、私は思います。靈魂はまったく自分を忘れ、すべてにおいて神の意志を行なうことだけを望んでいます。神の靈が私たちの内で言葉で言い表せないうめきをもって祈っていると、使徒聖パウロが述べていることが遂行されると言えます。内的な喜びは、靈魂のすべてが主を賛美するための舌であろうとするほどです。靈魂は、無数の聖なる愛に満ちた言葉を口にするのです。

(P. 九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2023年 春号 No.388

《共に歩むーパンデミックの世界の中で》
アビラの聖テレジアとシノダリティの一考察

松田浩一

カルメルの外のカメル

ー教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ

鶴岡賀雄

苦しみの秘儀ーパスカルの

「病の善用を神に求める祈り」

釘宮明美

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の靈性(1)

ウィリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の靈は導く(5)

ーテレーズ生誕(1873~1897)ー五〇周年を迎えて
伊従信子

風に吹かれて再び(3)

ー私のなかにキリストは生きているか

原 造

世界遺産、シャルトリューズ修道院の生活

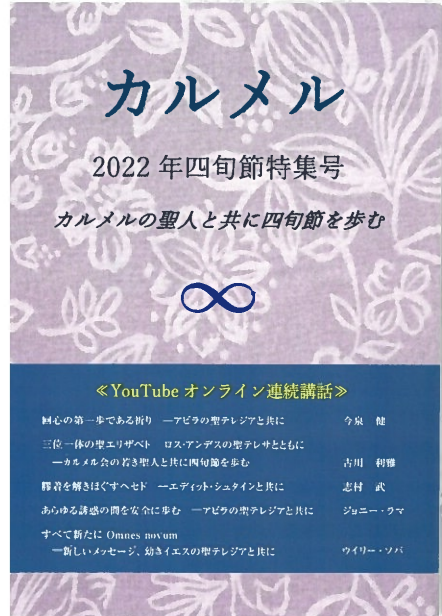
森 みさ

平和への道(1)

九里 彰

靈的研究会講義録(19)ー聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2022年 特集号

カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り

ーアビラの聖テレジアとともに

今泉 健

三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

ーカルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

膠着をときほぐすへセド

ーエディット・シュタインと共に

志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む

ーアビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum

ー新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に
ウィリー・ソバ

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社の定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 誓 愿(1)
 - 第2章 誓 愿(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対 話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英 知
 - 第18章 活 動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

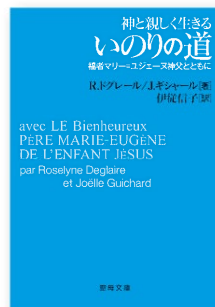
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



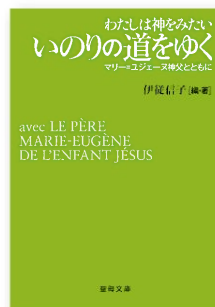
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

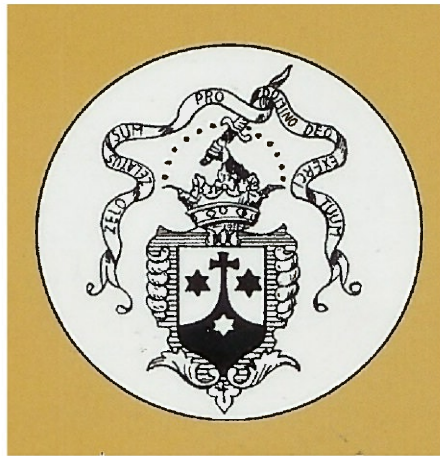
定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年4月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

~~2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》~~

【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

4月29日～30日

7月 8日～9日

9月23日～24日

11月18日～19日

2024年

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付)——カルメル会士——

—《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》—

2023年—4月19日—5月17日—6月21日—7月19日—

9月20日—10月11日—11月15日—12月20日—

2024年—1月17日—2月21日—3月20日 中止

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付)——志村武神父

2023年—5月11日—7月6日—9月21日—11月9日—

2024年—1月11日—3月7日 中止

- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

11月11日～12日

5月20日～21日

2024年

7月 1日～ 2日

1月13日～14日

9月30日～10月1日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2023年8月16日(水)～25日(金)

~~8月1日(火)～10日(木) 中止~~

12月27日(水)～1月5日(金)

- ・ 青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
2023年 ~~5月13日(土)～14日(日)~~
2024年 3月23日(土)～24日(日)
- ・ 召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
2023年 11月25日(土)～26日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)
カルメル会士
2023年 4月22日(土)～23日(日)
7月22日(土)～23日(日)
10月28日(土)～29日(日)
2024年 1月27日(土)～28日(日)
- ・ 特別黙想会 (初日20時夕食なし～最終16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ト・ヴァイ)
2023年 6月16日(金)～18日(日)
11月3日(金)～5日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2023年4月～)

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
5月20日～21日 7月22日～23日 9月2日～3日 11月25日～26日
2024年
1月20日～21日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父
5月27日 7月1日 **変更** 9月30日→9月2日 12月16日→11月11日
2024年
2月3日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父
4月26日 5月24日 6月28日 **変更** 7月26日→7月19日
9月20日 11月8日 12月13日
2024年
1月17日 2月14日 3月20日

【カルメルの靈性】 (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父
カルメル山の聖母 7月14日～15日
幼き聖テレジア 9月22日～23日
アピラの聖テレジア 10月13日～14日
十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父
4月13日 6月1日 7月6日 9月14日
10月5日 11月2日 12月7日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父
5月23日 6月27日

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可
8/1 (火)～10 (木) 中川博道神父
11/12 (日)～21 (火) 中川博道神父
12/27 (水)～1/5 (金) 中川博道神父
2024年
3/4 (月)～13 (水) 中川博道神父

新企画

【男性のための黙想会】 中川博道神父

5月13日(土)～14日(日)

11月22日(水)～23日(木) …22日は夕食を済ませ21時までにおいでください。

新企画

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

1泊2日(土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)

10月7日(土)～8日(日)

11月4日(土)～5日(日)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

~~4月13日~~ 終了 6月1日 7月6日 9月14日

10月5日 11月2日 12月7日

「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

~~5月23日~~ 終了 6月27日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

日時：2023年7月1日（土） 14：30－16：30

テーマ：原初史①（創世記1章、6-9章）

（キーワード）神の支配、神の愛、罪、祝福、ノア契約とイエス・キリストによる新しい契約、創 9：5「あなたたちの命である血が流された場合、わたしは賠償を要求する」をどう理解するか。他、カトリック教会における聖書解釈の基礎、など。

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

【開催予定日】（土曜日 14：30－16：30）

2023年7月1日、9月2日、10月21日、11月18日、12月16日

2024年1月20日、2月17日、3月16日

静修の集い（名古屋日比野修道院）

【開催予定日】（土曜日 14：00－17：00）

2023年9月30日、12月2日、 2024年3月9日

【スケジュール】

14:00～14:20 初めの祈り、14:20～15:20 講話、15:20～16:15 ご聖体顕示、念祷、面談、16:15～ミサ

2023年 春夏
2023.4~9

番組案内

AMラジオ放送
インターネット放送

AM1566kHz 毎夜9:30~
〈全国放送〉
www.febcjp.com 〈毎日更新〉

キリスト教放送局
FEB C

日

夜9:30~



主日礼拝取材番組

全地よ 主を
ほめたたえよ

- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 小岩教会
- [第3]ホーリネス 東京中央教会
- [第4]日基教団 久万教会
- [第5]日基教団 石動教会



神からの
メッセージ
—グレゴリオ聖歌—
橋本周子
聖グレゴリオの家・
宗教学研究研究所長

月

[月~金] 夜9:30~

FEBCTODAY—今日の聖書・今週の讃美歌—

恵子の郵便ポスト

FEBメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子

火



夜9:48~
聴く
信仰
「いのち」を
をいただく
御言葉黙想



山内十束
カトリック・御受難修道会、
宝塚黙想の家司祭

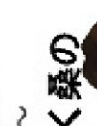


夜10:14~
Echo of
Voices
長倉崇宣



夜10:28~
御足の
跡を
小池与之祐
日基教団神の愛
キリスト伝道所牧師

水



夜9:47~
いちじく桑の
木登り
—わたしの
教理問答
(再)—



石居基夫
福音ルーテル教会
牧師、ルーテル学院
大字長
お相手・吉崎恵子



夜10:14~
主に向かって
歌おう
飯靖子
日基教団聖南成教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

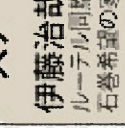


夜10:28~
弱さを
捧げる者と共に
—Sr.阿の祈りのエッセイ
聖母の騎士修道女会会長

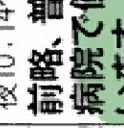
木



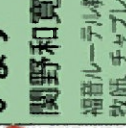
夜9:47~
新
石巻J-CCM
ステージョン



伊藤治哉
ルーテル同窓
石巻希望の家牧師



夜10:00~
新
旅の音、
心の音(お)



夜10:14~
前略、普通の
病院で働いて
います
関野和寛
福音ルーテル教会
牧師、チャペリン

金



[第1]
夜9:30~
M・ルターの「お
『キリスト者の自由』
(再)



徳善義和
福音ルーテル教会元牧師、
日本ルーテル神学校名誉教授



石居基夫
福音ルーテル教会
牧師、ルーテル学院
大学学長



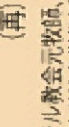
[第2]夜9:37~
Echo of
Voices

[第2]夜9:47~
FEB C特別番組
「共に生きる」(再)

土



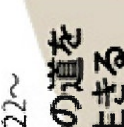
夜9:30~
新
一期一会の
みことば



加藤智
カトリック・
さいたま教区司祭



夜9:53~
Kishiko
の
ひとりじゃ
ないから
コスベルシンガー



[第1~3]
夜10:04~
コーヒー
ブレイク・
インタビュー

[第4~5]
夜10:04~
交わりの
ことば

夜10:31~
御心の響き
服部みぎわ

[第3~4]夜10:22~
Meguoの
CCM insight!
Genuine Graceホーカル

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
8月 休み
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	7/2(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	シャルトル聖パウロ 修道女会 九段修道院(来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
名古屋入門 C	7/9(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター	攪上(かくあげ) 暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
宝塚 フォローアップ	7/13(木)17:00- 15(土)16:00	同上	女子御受難会修道 院 (宝塚市売布山手)	西村優子 Tel 090-8480-2661 西村不在時 野 真理子 Tel:090-6758-3369
宝塚 I & アドバンス	7/16(日)9:00- 17(月・祝)16:00	同上		
札幌 フォローアップ	8/24(木)9:30- 25(金)18:00	同上	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間攝子 Tel 080-3260-1864 本間不在時 山崎有紀 Tel 090-4720-2157
札幌 I & アドバンス	8/26(土)9:30- 27(日)18:00	同上		
信越 サダナ	9/8(金)9:00- 10(日)15:00 (前泊可)	同上	御聖体の宣教クララ 修道会 軽井沢修道院 (北佐久郡軽井沢町)	久喜ますみ Tel 090-7842-9402 masumi.kyuki@ gmail.com
広島 サダナ II	9/15(金)9:00- 18(月)16:00	Fr 植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel 082-239-0034

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。
- 入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。



慈しみ深き会

祈りの集い



～沈黙の内に神を求めて～

神の現存を身近に感じたい、沈黙の内に神との親しい交わりを体験したいと、魂の奥底で感じていらっしゃいませんか。もしそうならば、ただひたすら神のみに心に向け、自分の全存在を捧げて神と共に過ごすひとときを、ご一緒しませんか。

イエズス会の故ウイリアム・ジョンストン神父様は、信徒のために10年以上もご聖体の前で沈黙の内に祈る場を、毎週土曜日、提供してくださっていました。私たちはその神父様の思いを大切にしていきたいと、この祈りの集いを2011年に始めました。

故ジョンストン神父様の『愛と英知の道～すべての人のための霊性神学～』（サンパウロ）についての講話を聴いた後、沈黙の内にひたすら神に向かって共に祈ります。広いお部屋が準備されていますので、隣の人を気にすることなく祈れます。

日時：7月13日(木)13:00～15:00

9月14日(木)13:00～15:00

場所：麴町教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

指導：九里彰神父(カルメル会)

対象：どなたでもどうぞ 申込不要 献金歓迎

問合せ：042-473-6287 篠原(11:00～20:00)



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

